

【論点1 成人式の必要性】

- 「継続した方がよい」という意見が増加

Q. 今後の札幌市の成人式の成人式について、2つの意見のうち、どちらの意見に近いですか。ちょうど中間を「4」としたとき、あなたの意見に最も近いものを1つご選択ください。1廃止した方がよい～7継続した方がよい（数値は平均値）

第1回

会議前	情報提供後	討論後
5.8	5.9(↑)	6.1(↑)

第2回

会議前	情報提供後	年代別討論後	混成討論後
6.0	6.0(→)	6.2(↑)	6.3(↑)

【論点1 重視すべき点】

- 「出席者の満足度」の重要度が最も高い。「コストの節約」は低い水準ながらも増加

Q. 成人式を実施する上でのどのような視点や考え方を特に重視するのが良いと思いますか。次の項目について、あなたが考える重要度を7段階の中から1つご選択ください。1重要度低～4普通～7重要度高（数値は平均値）

第1回	会議前	情報提供後	討論後	会議前後の差
出席者の満足度	5.4	5.9(↑)	6.1(↑)	+0.7
出席者の懇親の機会	5.0	5.7(↑)	5.9(↑)	+0.9
参加しやすい開催時期	5.3	5.5(↑)	5.7(↑)	+0.4
会場へのアクセスのしやすさ	5.2	5.8(↑)	5.6(↓)	+0.4
地域社会から祝われる場の創出	5.0	5.3(↑)	5.0(↓)	±0
コストの節約	4.2	5.0(↑)	4.7(↓)	+0.5
主催者の負担感	4.4	5.0(↑)	4.5(↓)	+0.1
出席率	4.4	4.8(↑)	4.3(↓)	-0.1
伝統文化に触れる機会	3.8	3.7(↓)	3.8(↑)	±0
厳粛な式にすること	3.4	3.4(→)	3.0(↓)	-0.4

第2回	会議前	情報提供後	年代別討論後	混成討論後	会議前後の差
出席者の満足度	6.2	6.2(→)	6.4(↑)	6.4(→)	+0.2
会場へのアクセスのしやすさ	5.8	6.0(↑)	5.8(↓)	6.0(↑)	+0.2
出席者の懇親の機会	5.3	5.6(↑)	5.8(↑)	5.8(→)	+0.5
参加しやすい開催時期	5.9	5.6(↓)	5.6(→)	5.7(↑)	-0.2
出席率	5.0	5.7(↑)	5.9(↑)	5.6(↓)	+0.6
地域社会から祝われる場の創出	4.7	4.8(↑)	5.0(↑)	4.9(↓)	+0.2
コストの節約	4.3	4.6(↑)	5.0(↑)	4.8(↓)	+0.5
主催者の負担感	4.6	4.7(↑)	4.4(↓)	4.6(↑)	±0
伝統文化に触れる機会	3.7	3.6(↓)	3.5(↓)	3.3(↓)	-0.4
厳粛な式にすること	3.3	3.3(→)	3.6(↑)	3.3(↓)	±0

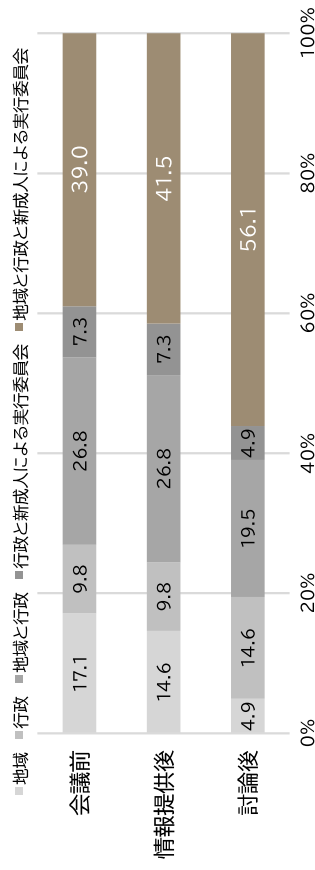
1. 未来の成人式を考える市民会議の開催結果（概要）について | 主な調査結果②

【論点2 実施主体】

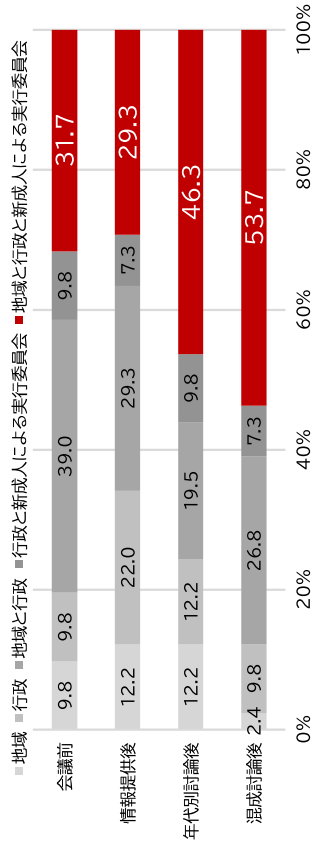
- ・「地域と行政と新成人による実行委員会」という意見が大幅に増加し、「地域」「地域と行政」は減少

Q. 成人式の運営について誰が主体的に担っていくのがよいと思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つご選択ください。

第1回



第2回

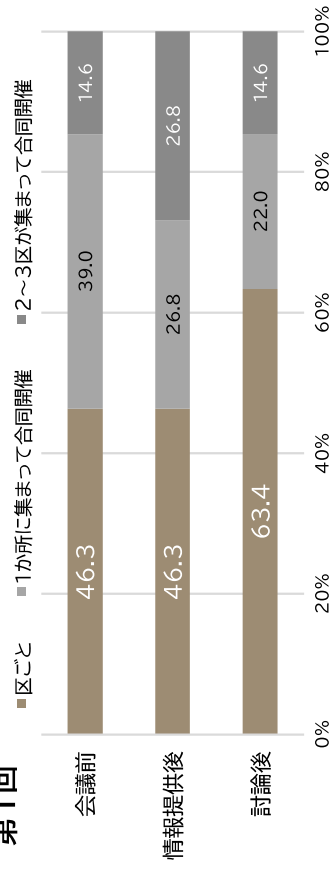


【論点2 開催場所】

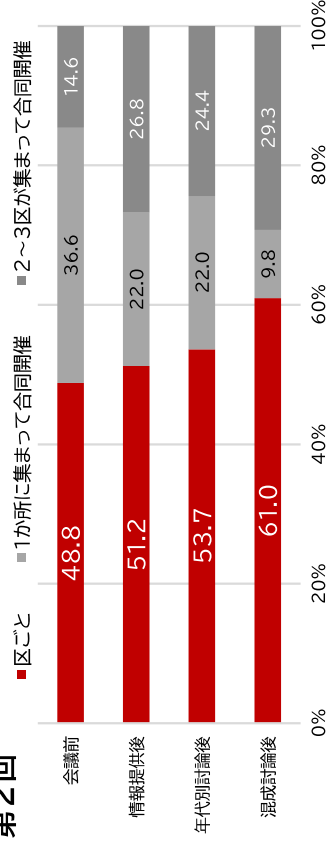
- ・「区ごと」という意見が大幅に増加し、「1か所に集まって合同開催」は減少

Q. 成人式はどのような場所で開催されるのがよいと思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つご選択ください。

第1回



第2回



1. 未来の成人式を考える市民会議の開催結果（概要）について | 主な調査結果③

【論点2 内容】

- ・「参加者同士が会話を楽しめる場の設置」を重視する意見が最も多い。「元担任の先生からのお祝いのメッセージ」が大幅に増加

Q. 成人式について、どのような内容を特に重視するのがよいと思いますか。次の成人式で実施されている内容について、あなたが考える重要度を7段階の中から1つご選択ください。1重要度低～4普通～7重要度高（数値は平均値）

第1回	会議前	情報提供後	議論後	会議前後の差
参加者同士が会話を楽しめる場の設置	5.8	5.5(↓)	6.0(↑)	+0.2
記念撮影コーナー	4.4	4.7(↑)	5.0(↑)	+0.6
元担任の先生からのお祝いのメッセージ	3.9	4.6(↑)	4.9(↑)	+1.0
コンサートなどの催し	4.4	4.1(↓)	4.6(↑)	+0.2
記念品や抽選であたるプレゼント	4.5	3.8(↓)	4.3(↑)	-0.2
来賓からの祝辞	2.9	2.8(↓)	2.2(↓)	-0.7

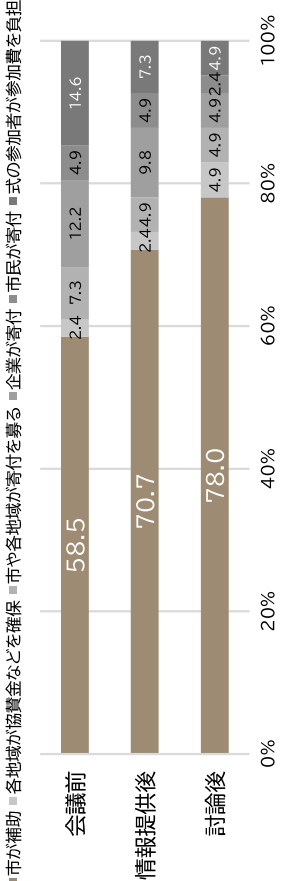
第2回	会議前	情報提供後	年代別議論後	混成議論後	会議前後の差
参加者同士が会話を楽しめる場の設置	5.8	6.0(↑)	6.1(↑)	6.0(↓)	+0.2
記念撮影コーナー	5.0	5.2(↑)	5.2(→)	5.3(↑)	+0.3
元担任の先生からのお祝いのメッセージ	4.3	5.0(↑)	5.0(→)	5.0(→)	+0.7
コンサートなどの催し	5.0	4.5(↓)	4.4(↓)	4.6(↑)	-0.4
記念品や抽選であたるプレゼント	4.7	3.8(↓)	4.3(↑)	4.2(↓)	-0.5
来賓からの祝辞	3.0	2.9(↓)	3.0(→)	3.0(→)	±0.0

【論点3 財源】

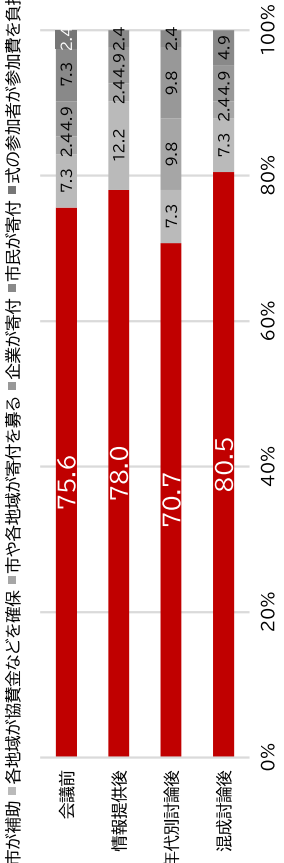
- ・「市が補助する」を重視する意見が最も多く、会議を通じて増加

Q. 成人式を実施するための財源を確保していくために、誰の、どのような取組が特に重要だと思いますか。重要だと思う順に優先順位を1～6でご選択ください。（優先順位1位の結果のみ掲載）

第1回（優先順位1位）



第2回（優先順位1位）

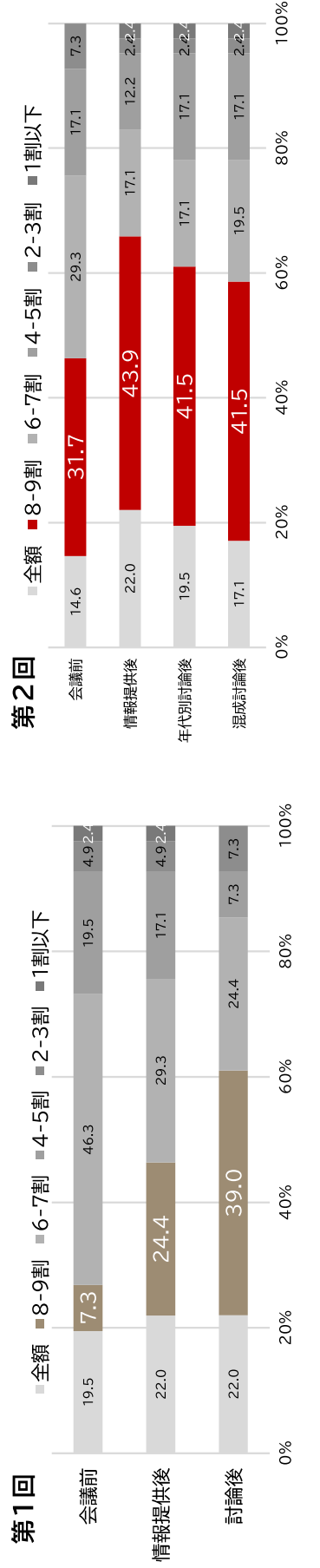


1. 未来の成人式を考える市民会議の開催結果(概要)について | 主な調査結果④

【論点3 補助金】

- ・「8～9割」という意見が増加し、「6～7割」という意見は減少

Q. 地域に対する市からの補助金の額は運営費全体のどの程度であると思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つご選択ください。



【あなたが考える理想の成人式(自由記載)一部抜粋】※各回の最後の調査に自由記載欄を用意

- ・今のままで良い。(第1回)
- ・大がかりなことはいい。自分の晴れ姿を親に見せて感謝を伝える、友人と再会する、地元に戻るきっかけとなる一つのイベントであり、式の内容自体にこだわりのない。(第1回)
- ・会えていない友人とたくさん会えるように広い場所の提供と、堅苦しくなくて今後に生きる分りやすい話をしてくれればいい。(第1回)
- ・成人式にこだわる必要はないのでは？(第1回)
- ・行政が準備するのは最低限の必要十分なプログラムでよく、特別な催しやイベントとは18-22歳くらいの当事者のアイディアをベースに協賛や寄付を組み合わせて実現を目指す方式がいいと思う。(第2回)
- ・温かみのある思い出に残るような式。(第2回)
- ・未来の自分を考えるきっかけになったり自分が社会にどう貢献できるか考える機会や、従来通り友達と会える機会としては素晴らしい機会になると思うのでその辺りは継続してほしい。(第2回)

市民会議の運営に関するまとめ

○サイレント・マジョリティの市政参加を促すことにつながった

- ・「普段市政に対して全く意見を言ったことがない」方が半数以上参加し、会議後に「同じような会議にまた参加したい」と感じた方が多数いたことに加え、第2回では「会議をきっかけに今後市政課題の解決のために意見を言ってみよう」と7割の方が回答したことから、サイレント・マジョリティの掘り起こしにつながったと考えられる。

○会議への参加を通じて参加者の意見が変容したことが確認された

- ・アンケート調査の結果から、情報提供やグループ討論を通じて、様々な説明や自分と異なる意見に耳を傾けることで、個人の意見が変容したことが確認された。また、一般市民が、さまざまな情報提供をもとに熟慮し、考えを変化させる中で最終的に選択した結果として、実際の施策にも生かすことのできる貴重な意見を収集できた。

各論点に関するまとめと市の現状の考え

○（論点1 方針）今後も継続し、いかに参加しやすく、満足してもらえる式にするかが重要

- ・成人式は必要であるという意見が多く、重視すべき点としては、出席者の満足度、出席者の懇親の機会、会場へのアクセスのしやすさ、出席しやすい開催時期という選択肢が上位を占めた。このことから、いかに参加しやすく、満足してもらえる式にするかが重要。

○（論点2 主体等）新成人に企画などに企画してもらい、意見を取り入れる仕組みの構築が必要

- ・実施主体、開催場所、内容に関する各回答を統合すると、地域と行政と新成人による実行委員会が主体となり、区ごとに開催され、参加者同士が会話を楽しみ、記念撮影をすることができるようになるという結果となった。論点1の結果にも関連するが、参加者目線で企画などに企画してもらい、意見を取り入れる仕組みの構築が必要と考えられる。

○（論点3 財源）市が寄付金の活用なども視野に入れながら、財源の確保に向けた手法を検討

- ・財源の確保については、市が補助し、割合を現状より高めるのがよいとする意見が多かった。市として、現在試行実施しているクラウドファンディングなど、寄付金の活用なども視野に入れた財源の確保に向けた手法を検討していく。

- ・ 5～6月に行った成人式に関する1回目アンケートの追加調査として、2回目の調査を実施
- ・ 1回目アンケートの設問において、成人式のあり方について「札幌市と市民が議論した結果」及び「アンケート結果」の両方を知りたいと回答した方が、全体の57.9%(N=557)※アンケートの回答率は18.6%
- ・ これまでの検討のプロセスや、市民アンケートと市民会議の結果をご覧いただいたうえで、再度アンケートへの回答を依頼し、その結果も含めて成人式のあり方の検討や市民参加の仕組みづくりの検討にも活用する

1.目的

- ① 成人式のあり方の検討に活用
- ② 市民参加の仕組みづくりの検討に活用
- ・ サイレント・マジョリティの掘り起こし(なぜアンケートに回答しよ
うと思ったか、1回目アンケートに回答しなかった方はなぜ今回は
回答しようと思ったかの要因を確認する)
- ・ 市民会議結果の周知と効果の検証(「市民会議結果」の情報の有無
による回答内容の差を確認する)

2.対象

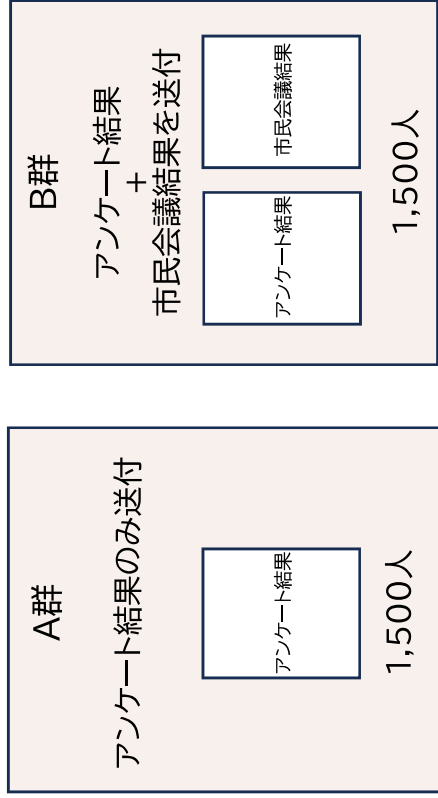
5～6月に実施した1回目アンケートの19歳の調査対象者3,000人
※令和7年1月開催の成人式の対象者

3.実施期間

12月下旬～1月上旬
※回答期限を成人式(令和7年1月12日)の前までに設定

4.調査方法

- ・ 下記のとおり、A群とB群に分けて調査票を郵送し、結果を踏
まえた上で、調査票(紙)またはWEBフォームにより回答してもらう。
- ・ 1回目アンケート調査の質問内容をベースとし、「1回目のアンケー
トに回答していない方が、なぜ今回のアンケートに回答しようと
思ったか」の設問を追加し、1回目からの意識の変化を確認。
- ・ 「回答するにあたり、市民会議結果またはアンケート結果が参考に
なったか」の設問を追加し、結果を周知することの効果を確認する。



I. ガイドラインについて	○背景、目的、位置づけ 札幌市自治基本条例に基づき、市民参加の機会を確保するとともに、必要な情報共有を行うことにより、社会経済情勢の大きな変化の中において、市民とともに考え、話し合い、暮らしやすいまちを実現していくための指針であることを記載。
II. 情報共有の推進	○情報共有の推進にあたって 情報共有の必要性、提供時期と内容、情報提供のポイントなどを記載。 ○具体的な情報提供方法など 情報提供手法の例と特徴、留意点(個人情報保護の観点含む)などを記載。
III. 市民参加の推進	○市民参加の推進にあたって 市民参加の必要性、実施時期、出された意見への対応方法、市民参加の取組状況の公表などを記載。 ○政策の立案、実施、評価等の各段階における市民参加 市民参加の実施について、<u>具体的なルール</u>(対象事業と手法の選定方法、実施のタイミング等)やフォロー、留意点などを記載。
IV. 市民と行政の役割	○市民の役割 まちづくりに参加していただくために、具体的な意見の提出方法や参加の機会の情報収集の方法、<u>市民モニター制度</u>(仮称・市民サポーターズ)への登録などを記載。 ○行政の役割 情報共有と市民参加の推進(上記Ⅱ・Ⅲ)、市民同士がまちづくりについて議論し考えを深めた上で意見を出すことができる環境づくり(札幌版ミニ・パブリックスの実践と研究、デジタルプラットフォームの活用、市政課題を題材に市民がファシリテーション技術を学べるワークショップの企画など)に努めることなどを記載。
V. 評価	○評価、見直し 情報共有と市民参加の推進のための指標に基づく達成度の評価(市民参加の取組状況に関する客観的な指標を新たに設定することなどを検討)、ガイドラインの定期的な見直し・改善の時期、市民や職員からのフィードバックの収集などを記載。

第2回未来の成人式を考えるアンケート調査結果について

【資料1】
令和7年(2025年)2月3日 第9回第5次市民自治推進会議
市民自治推進会議事務局 (市民自治推進室)

【調査対象】 5～6月に実施した1回目アンケートの19歳の調査対象者3,000人 ※R7年1月開催の成人式の対象者

【調査期間】 令和6年12月23日(月)～令和7年1月10日(金)

【調査方法】 A群とB群に分けて紙の調査票を郵送し、調査票の返送またはオンラインによる回答

※A群:1回目アンケート結果のみ送付、B群:1回目アンケート結果+市民会議結果を送付

【調査結果】 回答数:189件(A:86件[紙29件、WEB57件]、B:103件[紙56件、WEB47件]) 回答率:6.3%(A:5.7%、B:6.9%)

調査概要

【実施主体】 Q. 地域が主体となって実施することが困難になる恐れがあることについて(複数回答)

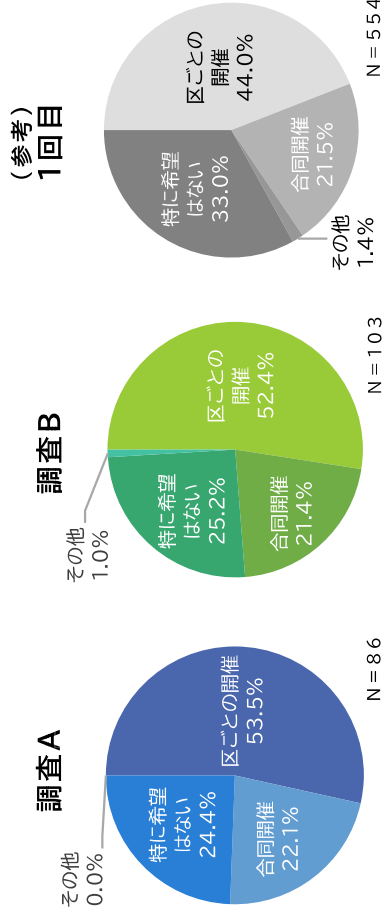
- 地域から祝ってほしいという回答が最も多い。調査Bの方が「地域のお手伝いなど協力したい」「企画から運営まで関わってみたい」と回答した方が6～7ポイント多い。

選択肢	調査A N=86	調査B N=103	AとB の差	(参考)1回目 N=557
地域から祝ってほしい	46.5	51.5	5.0	46.7
行政が主体となって開催した方がよい	39.5	35.0	4.5	31.4
実施主体の事情は自分には関係ない	11.6	10.7	0.9	15.1
地域のお手伝いなど自分も協力したい	9.3	16.5	7.2	12.9
自分が企画から運営まで関わってみたい	4.7	10.7	6.0	5.2
その他	2.3	4.9	2.6	6.1
分からない	15.1	11.7	3.4	14.9

※結果の数値は%、差は%ポイント

【開催場所】 Q. 今後の開催方法として希望するもの

- 調査Aと調査Bで回答の傾向はほぼ変わらず、5割以上の方が区ごとの開催を希望している。



Q アンケート調査に協力した理由 (複数回答)

- 調査Aは「成人式は自分にとって大事なイベント」の回答が最も多く、調査Bは「R7.1に成人式を迎えるため身近な話題」の回答が最も多い。この2つは、テーマが自分事として捉えられる理由である。

選択肢	調査A N=85	調査B N=99	AとB の差	(参考)1回目 N=557
成人式は自分にとって大事なイベント	47.1	26.3	20.8	32.9
R7年1月に成人式を迎えるため身近な話題	36.5	51.5	15.0	46.7
回答にそれほど手間がかからない	31.8	39.4	7.6	35.5
札幌市からのアンケートに義務感を感じた	22.4	26.3	3.9	28.0
成人式をもっと良いイベントにしたい	15.3	13.1	2.2	16.7
自分の意見を参考にしてみたい	12.9	12.1	0.8	12.7
自分の考えや意見を市に伝える機会が普段はない	12.9	11.1	1.8	—
回答者として自分が選ばれたことに特別感を感じた	12.9	7.1	5.8	17.4
封筒や調査票のデザインに興味を引かれた	1.2	0.0	1.2	1.4
その他	1.2	4.0	2.8	6.3

※結果の数値は%、差は%ポイント

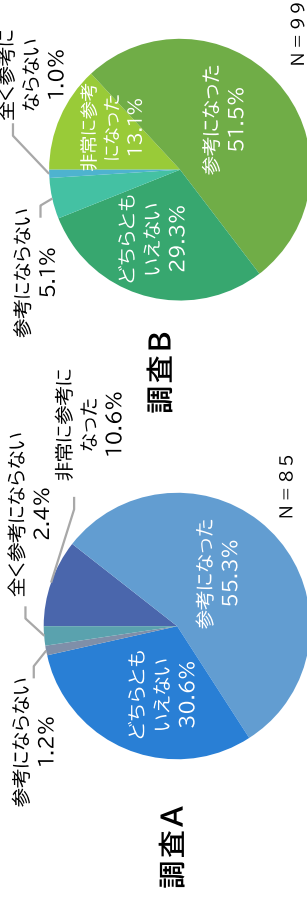
第2回未来の成人式を考えるアンケート結果について

令和7年(2025年)2月3日 第9回第5次市民自治推進会議
【資料1】
市民自治推進会議事務局(市民自治推進室)

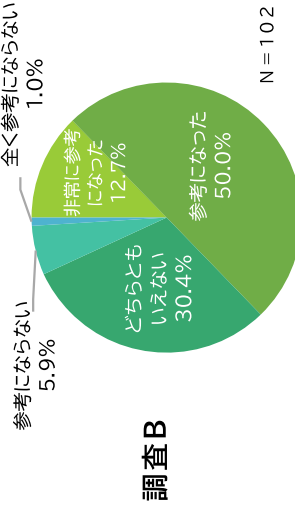
【結果を周知することの効果】

- 1回目アンケート、市民会議結果が参考になったと回答した方が6割以上、市民会議結果に気づきや学びがあったと回答した方が6割近くおり、結果を周知することは有効であると考えられる。

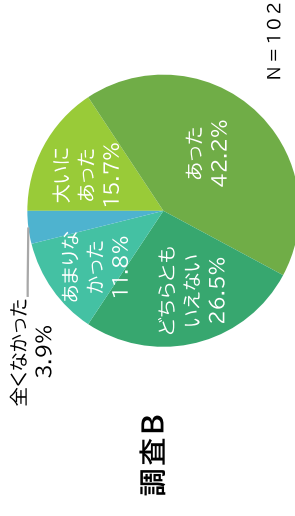
Q 1回目アンケート結果は参考になったか。



Q 市民会議結果は参考になったか。



Q 市民会議結果に気づきや学びはあったか。

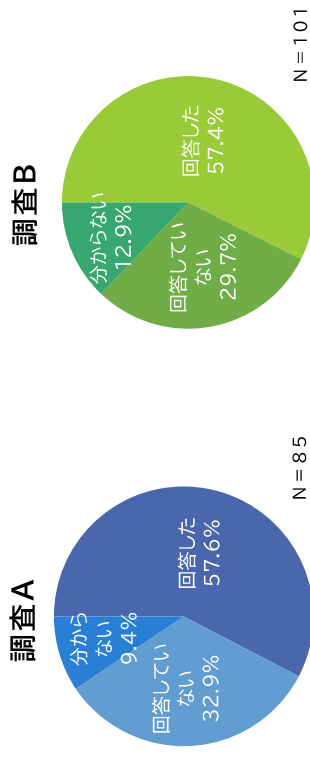


まとめ

- 市民会議結果の情報提供は、実施主体や財源の設問で調査Bの方が結果に影響される回答の割合が多くなっている結果から、市民会議結果を知らせることによる学習効果があった可能性があると考えられる。
- 1回目アンケート結果や市民会議結果が参考になったと回答した方が多く、情報提供の効果はあったものと考えられる。
- 同じ対象に継続してアプローチすることは、回答数の大幅な減少というデメリットがある一方で、タイミングが合えば意見を出してもらえる可能性があり、アンケートの設問数を少なくしたり、答えやすい内容にするなど、回答してもらいやすい工夫が必要である。

Q 1回目アンケート調査に回答したか。

- 2回目アンケートの回答者のうち、1回目アンケートにも回答した方は57%程度、1回目アンケートに回答していない方は3割程度いた。



Q 今回アンケート調査に協力した理由 (※1回目アンケートに回答していない方が対象)

- 「今回は時間に余裕があった」「前回は調査があったことに気づかなかった」と回答した方が多く、この2つを合わせて5割程度を占めており、アンケートの回答にはタイミングが大きく影響することが考えられる。
- 「札幌市から継続してお知らせや依頼があった」と回答した方の割合は低く、何度もアプローチすることによる、サイレント・マジョリティの掘り起こしにはあまり効果がないと考えられる。

選択肢	調査A N=28	調査B N=29	AとB の差
今回は時間に余裕があった	32.1	17.2	▲14.9
前回は調査があったことに気づかなかった	21.4	27.6	6.2
成人式を直前に控えており、成人式に対する関心が高まった	17.9	6.9	▲11.0
札幌市から継続してお知らせや依頼があった	10.7	13.8	3.1
同封された資料を読んで、興味・関心が高まった	10.7	3.4	▲7.3
その他	0.0	3.4	3.4
特に理由はない	7.1	27.6	20.5

※結果の数値は%、差は%ポイント

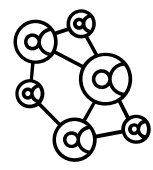
第5次市民自治推進会議の議論の全体像

背景

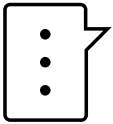
市民意見を的確に把握し、市政に反映する重要性が増している

札幌市は人口減少や少子高齢化などに直面しており課題が山積。持続可能で希望あるまちとして次世代に引き継ぐためには、**限りある資源を効果的に配分する必要があり、政策を形成する過程で市民の意見を的確に把握し、反映する重要性が増している。**
また、ITの急速な進展等を背景にライフスタイルも多様化しており、**市民参加手法のアップデートも求められている。**

課題



市民全体の声を十分に把握できていない
紙媒体のアンケート、ワークショップ、パブリックコメントなどの複数の手法で意見を収集しているものの、参加者に偏りがあるものと見られ、多様な市民の声を十分に把握できていない状況



政策形成過程への市民参加が限定的
市民参加が政策の固まった段階で行われることが多く形式的になっている。政策形成の過程でネガティブな意見やデメリットが広まることによって、市民の信頼が得られず、市政が停滞する場面も見られる

方針

札幌市全体や将来を見据えた意見を持つ市民が増え、行政と市民がともに考え課題解決に取り組める仕組み

①全体像の共有と情報提供の工夫

- 予算(税金)の配分などを含めた政策の全体像を提供する
- 正確でわかりやすい内容とする
- エピソード風の情報にする、生活に関連させる、顔の見える情報提供などの工夫を行う

②多様な市民意見の把握

- 効果的な手法でサイレントマジョリティを掘り起こす(中長期的な視点も持つ)
- 無作為抽出や統計的なサンプリング調査を活用して全体の傾向を把握する
- 年齢、性別、居住地域、職業など、属性ごとの意見の違いを分析して活用する

③政策形成過程への参加促進

- 市民が意思決定過程に入るとは、政策の方向性に与える影響が大きいと考えるれ、特に初期段階での参加を促進する
- 政策の検討結果だけでなく、検討過程も含めて市民と共有して透明性を高め、信頼や納得感の向上を目指す

仕組みの提案

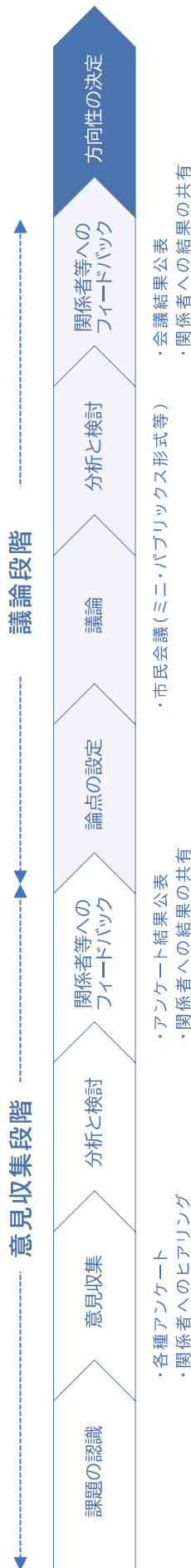
第9回会議(今回)の目的

仕組みの具体化に向けた議論を行っていただきます。

1. 多様な市民の意見をどのように把握するのがよいか
2. 意見をどのように市政に反映するのがよいか

成人の日行事の在り方検討のプロセスから確認された効果

- ・ 政策形成の初期段階で、市民の多様な意見を収集・整理し、課題を明確化
- ・ アンケート結果などを基に、市民会議で議論することで、段階的に意見をまとめあげながら政策の方向性を具体化し、併せて検討経過を公表することにより透明性の高い意思決定を実現
- ・ サイレントマジョリティへの多様なアプローチが市民参加の幅を広げる可能性も確認



プロセス全体の効果

① 透明性の確保

市民意見の収集から政策決定までのプロセスを公開することで、意思決定の透明性が高まった

- アンケートや市民会議の結果を公表するとともに、地域の関係者とも共有しながら進めることで、検討経過の透明性が確保された

② 多角的な分析の実現

各段階で異なる手法を組み合わせて実施し、属性などを把握した上で意見を収集したことで、様々な角度からの分析が可能になった

- アンケートや市民会議では、特に世代間の意見の違いが明確になり、それを踏まえた検討や議論が可能となった

③ 段階的な意見の整理と新たな視点の取り込み

- ・ 行政が政策の方向性を決めず、段階的に意見を収集し、課題やアイデアを整理する中で、自然に意見の方向性がまとまった。
- ・ 当初の想定にない新たな視点を柔軟に取り込むことができた
- 出された意見から、クラウドファンディングの案を実際に試行した

サイレントマジョリティの掘り起こしに有効な手法

① 無作為抽出によるアプローチ

無作為抽出を活用し、幅広い市民が参加できる機会を創出することは、普段市政に意見を言う機会のない層が参加するきっかけになる

- 市民会議では、参加者の約8割が「普段市政に意見を言う機会がほとんどない」または「ない」と回答

② SNSを活用したアンケートによる意見収集

アプリによる手軽な回答手段を提供することで、普段は忙しい市民等(特に現役世代)の意見も短期間で効率的に収集できる

- SNSを活用したアンケートでは、回答者の2～3割が「普段市政に意見を言う機会がないから」を回答理由として選択(複数回答)

③ 参加経験を通じた市政への参加意識の向上

市民が意見を述べる機会(特に議論の経験)を持つことで、市政への関心が高まるなど、継続的な参加につながる可能性がある

- 市民会議後、参加者の約6割が「会議をきっかけに市政課題の解決に向けて意見を言いたい」、8～9割が「再参加を希望」と回答

サイレントマジョリティモデル(たたき台)

- ・ サイレントマジョリティに効果的にアプローチするため、市民を「市政への関心度」と「行動意欲」により4層に分類
- ・ 「行動意欲」の指標を設け、市政への関心度が高くなっても、参加依頼や謝礼等が「きっかけ」となり参加する場合があることを考慮
- ・ 層は固定的ではなくテーマによって変動。市政全般への関心度や行動意欲が高まった場合に上位の層へ移行していく可能性も想定

	特徴	関心度	行動意欲	有効と考えられるアプローチ	想定割合
積極参加層	自ら進んで市政に関わり、意見を発信する意欲が高い層	高	高	- 手法全般 - 参加の継続につながる方策を検討	1割
潜在参加層(負担軽減型)	市政への関心が比較的高い。テーマに関心がある場合や、方法が手軽で負担が少ない場合に参加する可能性がある層	中～高	中	【新】SNSを活用したアンケート 【新】ミニ・パブリックス - 無作為抽出のアンケート	4割
潜在参加層(きっかけ型)	市政への関心は高くない。参加依頼や魅力的な条件、周囲の勧めなどのきっかけがあれば参加する可能性がある層	低～中	中	【新】SNSを活用したアンケート 【新】ミニ・パブリックス - 無作為抽出のアンケート - 中長期的に市政の関心度を高める方策を検討	2割
沈黙層	全く参加しない層	不明	低	- 即効性のあるアプローチは難しく、十分なサンプル数を確保することで間接的に意見を推測 - 中長期的に参加意識を醸成する方策を検討	3割

【参考情報】「令和5年度指標達成度調査(事業の効果に関する市民意識調査)」札幌市
実施方法：SNSを活用したオンライン調査
サンプル数：3,259件
1. 市政に関心があり、ある程度の時間や労力をかけても積極的に参加したい 4.8%
2. 市政に関心があり、負担が少なく手軽に参加できるものであれば参加したい 43.0%
3. 市政に関心はないが、魅力的だと思う条件や参加の依頼・誘い等、きっかけがあれば参加を考えても良い 12.7%
4. 市政に関心はあるが、参加したいとは思わない 30.7%
5. 市政に関心がなく、参加したいとも思わない 5.7%
6. わからない 3.1%

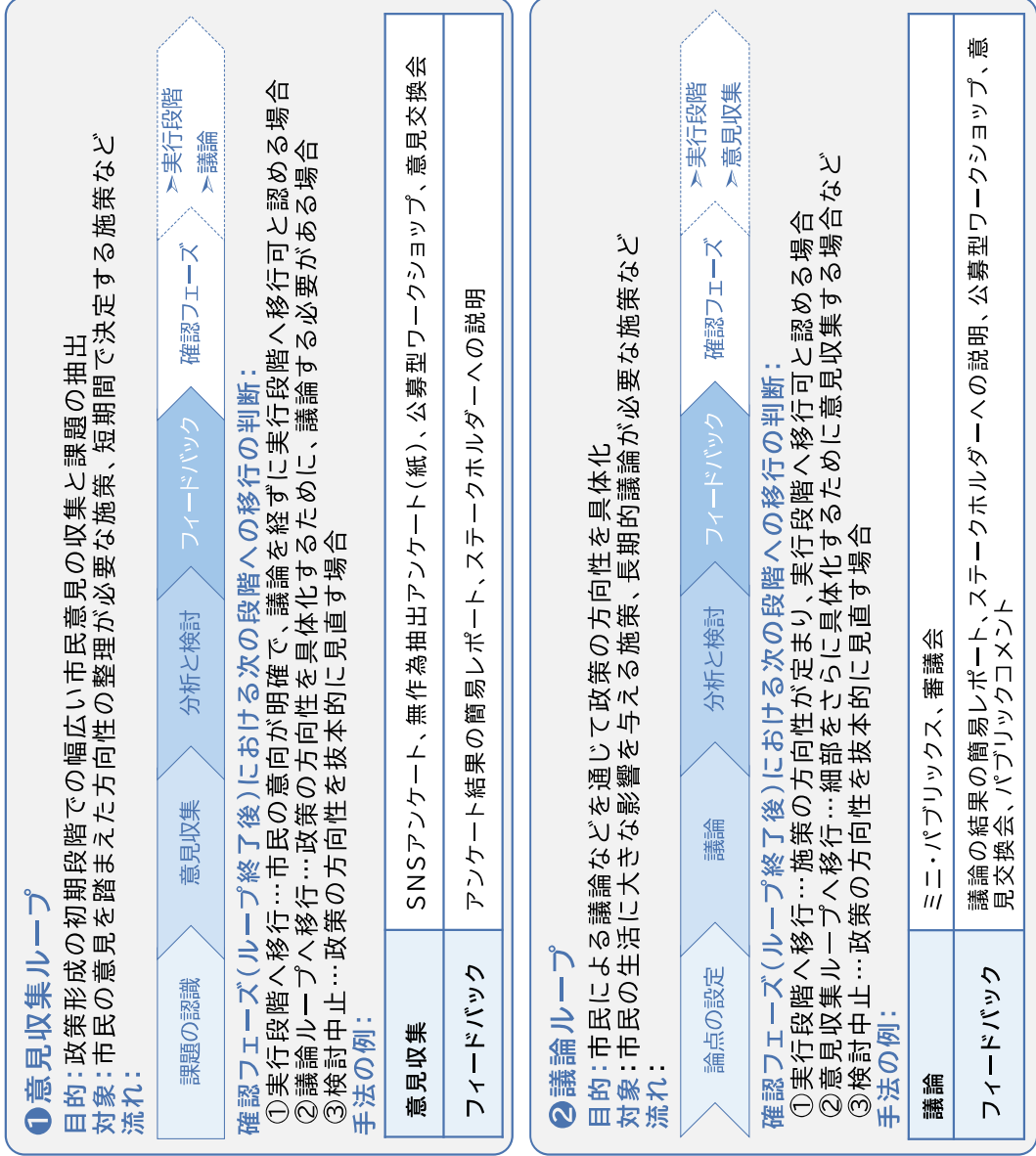
持続可能な参加のための取組や参加意識を醸成するための取組

- ・ 市民の参加を継続的に支える仕組みやサイレントマジョリティが市政に関与するきっかけづくりを目指す
- ・ 中長期的な視点で、札幌市全体や将来を見据えた意見を持つ市民が増えることを目指す

	内容	想定される課題
(仮称)市民サポーターズ制度	・ 市民がアプリやLINEで登録し、定期的なアンケート通知や結果のフィードバックを受け取る ・ 負担の少ない参加機会を提供し、積極参加層の継続的な関与や潜在参加層が参加するきっかけとしても活用	・ 登録者の属性が偏る可能性 ・ 途中離脱のリスク（参加意欲の低下）
(仮称)市民ファシリテーター制度	・ ミニ・パブリックスやワークショップ、意見交換会に参加し、議論を活性化する ・ 市民ファシリテーターの育成プログラムや定期的な研修会を通じて、市民自身が政策形成の議論を支援する役割を担う（市民ファシリテーター同士の安心感を創出するための「仲間づくり」の場として機能させる観点も）	・ 参加者の確保 ・ ファシリテーションスキルの習得にかかる負担 ・ 継続的な活動のインセンティブ
学校教育での市民参加プログラム	・ 小中学校で市政課題をテーマとした授業を実施し、市政への理解を深める ・ 考え、意見を持ち、社会に関わる力を育成し、将来的な市民自治の担い手を育成	・ カリキュラムにどう組み込むか ・ 生徒の関心を引く工夫
市民へのフィードバック	・ 市民会議やアンケート結果を広く発信し、市民が政策形成の流れを理解しやすくすることで、透明性を高め、政策への信頼や納得感を向上 ・ 情報を受け取るだけの市民にも届く形で発信し、市政への関心を喚起	・ 情報発信の手段によっては市民に届かない可能性 ・ 受け手側の関心を引く工夫 ・ 発信する情報が多すぎると、重要な内容を見逃すリスクがある

新しい政策形成プロセスモデル(たたき台)

- ・ 政策形成の初期段階などで幅広い意見を収集する「意見収集ループ」と、その結果を基に政策の方向性を具体化する「議論ループ」を組み合わせ、市民意見を段階的に収集・反映し、透明性の高いプロセスで、納得感のある政策の形成を目指す
- ・ 市民やステークホルダーへのフィードバックの結果も踏まえながら、政策の方向性を柔軟に調整する



※各ループにおいて、政策の規模やテーマに応じた適切な手法を選択し、組み合わせることが原則
※運用ルールは「ガイドライン」に盛り込み、個別の事業の実施判断のために庁内チェック体制を構築